

# チェリーの会だより

発行者 公立那賀病院内 乳がん患者会「チェリーの会」

ニュースレター

No.22

2013年7月発行

## 十人十色 ~乳がんのタイプを知ろう~

4月6日の「チェリーの会学習会」では、玉置先生に「十人十色」乳がんのタイプについてお話していただきました。玉置先生は四字熟語を好んで使われるそうです。〔ちなみに前回のチェリーの会のテーマは「温故知新」。新旧さまざまな術式・治療を学びました。〕



近年のがん治療は、チーム医療の時代と言われます。患者自身もそのチームの一員として患者力を伸ばすことが大事です。嘘の情報もあるので、正しい情報をキャッチすることが必要です。担当医には何でも尋ねて、自分の希望を伝えるようにしましょう。

### 乳腺の「できもの」は種類が豊富

乳腺にはいろいろな良性／悪性腫瘍があり、他の臓器に比べて種類が多いことが特徴です。自分の乳がんのタイプを知るために「わたしのカルテ」を作りましょう。

### わたしのカルテ

乳がん患者さんがカルテを作る際には、次のような項目について記載していきます。

- ・年齢、閉経状況、腫瘍径・位置、リンパ節転移状況

- ・術前検査・病理検査（術前）の結果、病期（治療前）、手術の術式、病理検査結果（術後）

これらは治療のために必要な情報となります。

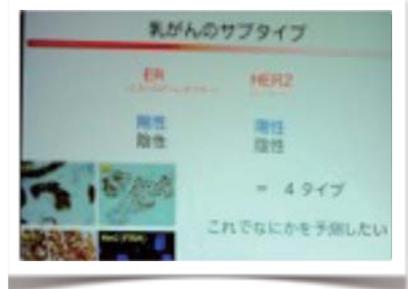
### 乳がん治療の種類と考え方

最近手術優先より薬物療法へとシフトしてきています。乳がんは早期から全身治療することが治癒の鍵となります。薬の選択肢も増え、薬物療法の個別化が進んでいます。つまり、薬の力が大きくなってきているので、薬を上手く使うことが大事ということです。

### 標準化から個別化へ

治療の指針、ガイドラインの普及により、標準治療が広まってきました。それをふまえた上で、さらに個別化治療（テーラーメイド治療）へと進んでいくでしょう。乳がんはひとつの病気ではありません。乳がん患者の遺伝子を検査するといくつかの型に分類されます。遺伝子までは調べなくても、病理検査の結果である程度予測でき、遺伝子の分類に当てはめることができると言われていています。

特に、ホルモン受容体（ER）とHER2タンパクの存在を知っておくことが大事です。これらの状態から4つのサブタイプに分類されます。他にもさまざまな指標から乳がんの性格を調べ、治療方法の選択に役立てます。



### 乳がん診療の目標と考慮事項

乳がん診療の目標は乳がんの治療選択を正しく行うことです。乳がんの特性以外にも患者の特性（年齢・閉経状態・既往歴など）、治療リスク、患者の意向が考慮されます。

乳がんのサブタイプや特性を知り、治療の選択に役立ててほしいと思います。患者会などで知識を得て、みんなでいっしょに考えていくことも大切です。



### 玉置先生のお話を聞いて

自分の病理検査結果や術式などは知っていても、まとめたことはなかったの、情報がばらばらになっていることに気づきました。

今度、みんなでいっしょに「わたしのカルテ」を作りたいですね。

## 外来化学療法 スタッフインタビュー

公立那賀病院の1階の奥に処置室があります。みなさんがいつも採血していただくところです。

採血のカウンターのさらに奥に寝台やリクライニングチェアのある部屋があります。ここでは、外来化学療法を行っています。抗がん剤の点滴や注射を外来で行うための設備が設置されています。がん化学療法認定看護師、抗がん剤を調剤する薬剤師が常駐しています。外来で化学療法ができる病院はそう多くありません。那賀病院は設備とスタッフの整った病院であると言えます。

今回、がん化学療法認定看護師の古田さんにお話しを伺いました。

### 外来化学療法に関して留意していることはどのようなことですか -

抗がん剤の治療には副作用があります。入院して点滴・注射する場合は、副作用による急な体調変化にも対処してもらえます。しかし、外来で行う場合、点滴・注射後は自宅で療養しますので、専門のスタッフが身近にいないという不安があります。

自宅では、患者さんが自分の身体に起こることをきちんと理解して対応することが大事です。何も知らないまま自宅に帰したくないという思いがあります。インターネット上の情報は豊富ですが、正確な情報を見きわめる必要があります。患者さんが間違った方法で対応しないように、正しい知識を持っていただくための指導・アドバイスに気を付けています。

安全に治療を進めるだけでなく、できるだけつらくないよう、楽に過ごせるようにしたいと考えています。そのために、患者さんがリラックスできる環境を提供することや患者さんの緊張をほぐすことにも留意しています。そして、自宅でも不安なく過ごせるように、何かあったときでもすぐに連絡できるようにしています。

### 副作用への対応については -

患者さんに、体調記録用紙とそれを綴じるバインダーをお配りして、体調の記録を書いてもらっています。週間の表になっていて、そこに日々の体調を記入してもらいます。記録を読めば、体調や出来事が一目で把握できます。例えば、「頭痛」などの症状が書かれていれば、なぜ頭が痛かったのかお聞きして対応することができます。体調の記録を看護師とのコミュニケーションにうまく利用していただきたいと思っています。

### 処置室の窓にはいつも楽しい飾り付けがされていますね -

あるスタッフが、季節に合わせて窓を装飾してくれています。患者さんにも好評です。



### 患者さんへのメッセージをお聞かせください -

抗がん剤の副作用、負担に関しては、ここでできるだけ対応したいと考えています。化学療法に関する相談もお受けします。つらい副作用には対応方法をお伝えし、不安のない治療が進められるようにしています。

投与後、長く続く副作用については、化学療法を経験した患者さんでないとわからないこともあります。副作用がどのように軽減されていくか、年単位の経過なども教えていただきたいです。患者さんからいろいろな要望を言っていただき、互いに信頼関係を築いていければと思います。



来年度、処置室から独立した化学療法室ができます。より良い環境の提供と専門的な対応が可能になることと思います。

### インタビューを終えて

正しい知識、正確な情報を得ることは大切だと思いました。先の記事にもあるように玉置先生は「正しい情報をキャッチすることが必要」と、前号のインタビューで、がん相談支援センターの腰田さんは「解決方法を選択する際の正しい情報提供が大事だと考えています。」とおっしゃっていました。専門の方のおっしゃることはこの点で共通ですね。

私は外来化学療法の期間中、体調の記録に、体調や服用した薬以外に、日々の出来事もメモしていました。看護師さんに目を通していただけることが楽しみでした。例えば、花火大会を見に行ったというメモから、その出来事を通じてコミュニケーションできたことなどがとても治療の励みになりました。

化学療法が終わってからも処置室に行きたくなると言っている人がいると、あるドクターがおっしゃっていました。忙しいスタッフのみなさんには申し訳ないのですが、私もそう思っています。つらい化学療法を終えることができたのはみなさんの支えのおかげです。

化学療法後の長く続く副作用について、その経過を、時々患者としてお話ししに行きたいです。そうすることで、今後、化学療法を受けられる方のための情報提供になればと思います。

### がんに関する相談はこちらへ

公立那賀病院  
がん相談支援センター

電話番号：0736-78-3892  
受付時間：月～金 9:00～16:00  
(祝日・年末年始などの休診日を除く)

編集／発行：公立那賀病院内 乳がん患者会

チェリーの会  
ウェブサイト

<http://cherry.fz-web.com/>

eメール

[cherry@fz-web.com](mailto:cherry@fz-web.com)

